

皆さまに深く感謝し、アジアコスモポリタン賞を慎んで拝受いたします。

受賞は、インドの経済移行と、インドと東アジアとの経済統合拡大における私の取り組みを認めていただいたものと理解しています。インドとアジアは共に非常に大きな経済的可能性を持っていますが、多くはまだ水面下にあり、これからの発展が期待されています。1991年以降にわが国で起こった経済成長は私の功績ではなく、私は経済成長における変化の推進者であったということです。

インドは、国際社会のしかるべき立場に立てるだけの大きな可能性と能力を持っています。一個人が国のロードマップを策定したことの功績を主張することはできませんが、私は国から自由化フェーズの経済政策を始めることを委ねられたと信じています。私の能力に対する信頼を大変光栄に思っています。

1991～1996年の財務大臣の時代には、国の経済的な潜在能力を引き出す手助けをしました。2004～2014年の首相の時代には、インドを東アジア共同体に近づけました。貿易が最も目立ちますが、2005年に創設した東アジアサミットを通じて社会的、文化的、教育的、戦略的関係も、より高く深いレベルとなりました。加盟国の団結に向けた忍耐強い大変な努力のことを、感嘆と満足をもって思い出します。サミット16カ国によるこの歴史的な団結は、社会的、経済的、成長的、環境的、戦略的な関心と目的をさらに推進するためのものであり、共に経済実績の達成と、2008年の不況や景気後退からの回復を経験しました。

私は、アジア的コスモポリタニズムの真の精神に基づき、東アジア共同体の創設メンバーとして米国とロシアを迎え、これを推進しました。多様な

国々が団結したことは、東アジアの成長とそのコスモポリタニズムの精神を最もよく表しています。ERIAは2007年の東アジアサミットから誕生しました。インドはその創設メンバーとしてERIAを正しく育んできました。アジア総合開発計画の「メコン・インド経済回廊」の構想計画を通し、インフラ開発と結合性の分野で貢献しており、7年という短期間にERIAが成長し、世界一流のシンクタンクとしての立場を確立したことを大変うれしく思います。

日本とインドは密接な文化的宗教的な歴史を共有しており、コスモポリタニズムの真の意味を世界に示しています。共に平和を愛する社会であり、古くからの遺産と現代の発展の様相を併せ持ち、共に民主主義の原則により統治されています。平城京があった奈良はシルクロードの最終地点であり、東アジア最初のコスモポリタン都市の一つと聞いています。8世紀の平城京に生きたインドの仏教徒、菩提僊那(ぼだいせんな)は、日本の華厳宗の成立に貢献し、古代言語であるサンスクリットを奈良の人々に伝え、初期の世界市民、コスモポリタンの一人であると記憶されています。インドが歴史的に奈良とつながっていたことをお話できることを光栄に思います。

第2回アジアコスモポリタン賞を受賞するに当たり、東アジアの輝かしい過去と豊かに発展する未来を信じるのが重要であることを、世界に向けて発信したいと思います。東アジアは数年以内にその可能性をフルに発揮し、真に包括的でコスモポリタニズム的な社会に成長すると信じています。この地域が、域内で統合し、また世界のその他の地域と統合して成長するという精神を継続的に育んでいくことを願います。ERIAが引き続き東アジアの成長と統合に貢献してくれることを期待します。

